

議会だより

NO.73 2012
1・25

たからほ

〈宮崎県高千穂町議会〉



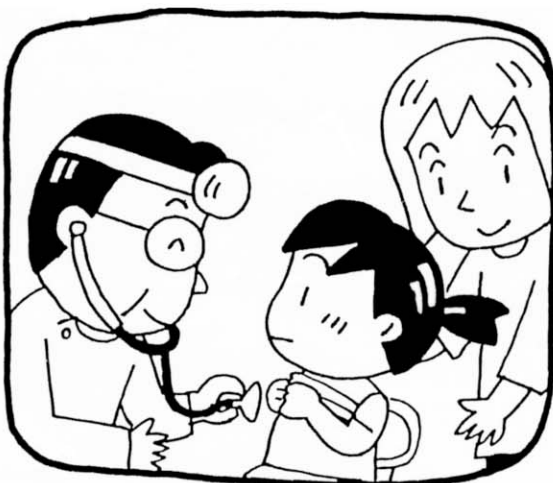
立派な大人になっての～ (成人式・本神太鼓鳴瀧会)

不公平感の是正を要望(土地改良事業)..... 4

自己評価を議会に提出(教育委員会)..... 5

一般質問に8人が登壇..... 6～9

これが聞きてえ～



やさしくしてね

予防接種の実績は

質疑 インフルエンザ予防接種の実績と今後の周知方法は。

答弁 12月7日現在1291人が予防接種をされており、22年度の半分である。今後さらに広報活動に努め、接種率を高める。

具体的な事業内容は

質疑 プラットホーム支援事業は県の枠を越えて広域的な事業となるが、主な事業内容は。

答弁 PR事業として、高千穂温泉を阿蘇温泉郷に含めて24年3月までに5枚で1500円の共通入浴券を発券する。また、福岡、熊本、高千穂間（毎日2便）を年会費4000円で乗り放題とするバスの特別便が計画されている。



これで安心ばい（防火水槽・五ヶ村地区）

減額の選手派遣費は

質疑 県中学校体育大会の選手派遣補助金150万円の減額はなぜか。

答弁 夏季大会での実績を基に予算計上している。秋季大会は県大会への出場選手が少なかったための減額である。

町単の取り組みは

質疑 防火水槽建設費の予算が4基分から2基分に減額されているが、現在の要望数と町単独で取り組み考えはないか。

答弁 国庫補助金の減額で2基分になった。残り22基の要望になり、24年度予算に反映していきたい。町単独の取り組みは研究する。

平成23年度 5790万円を追加

一般会計予算総額77億9450万円に

12月定例会

平成23年12月5日に開会となった定例会では、補正予算議案4件・その他の議案4件・人事案件1件を原案通り可決、16日に閉会しました。
定例会前の11月25日に開かれた第4回臨時会では、専決処分1件・補正議案1件を審査し、原案通り可決・承認しました。

補正額の主なもの

衛生費2436万円・災害復旧費4094万円・民生費2400万円・農林水産業費1291万円・商工費396万円・消防費937万円などは減額となります。



田原地区の災害

給与・報酬を3年連続引き下げ

人事院勧告に基づき、民間との差額調整を目的とした所要の改正を行うものです。
給与の改定については23年4月にさかのぼって調整されます。
本町においては、医師を除く職員76人が対象で総額で114万2686円、一人当たり平均1万5035円減額となり、3年連続で給与の引き下げとなります。

土呂久集落の上部に大きな亀裂

土呂久集落の上部に幅50m、深さ1.3m、1.8mの亀裂が見つかり、調査委託料として570万円が補正されました。



はよせにや危ね～の～（惣見地区）

不公平感の是正を要望



はよ、あつかわにや（黒口秋原地区隧道）

〈土地改良事業〉

枳（げず）揚水組合	農山漁村活性化プロジェクト事業
総事業費	3,000万円
受益者負担率	14%
黒口土地改良区	ため池等土砂崩壊防止事業
事業費総額	2,000万円
受益者負担率	1%

事業の比較

改良事業の2件を可決

土地改良事業の施行について2件の審査をしました。
2件は団体や事業内容が異なるので負担する金額にも差が生じるのは当然ですが、事業費が高額になった場合、負担額によっては改良を断念せざるをえなくなるケースも考えられます。

委員会の意見

土地改良事業における農地及び農業用施設の整備については、受益者負担の格差が生じているので、不公平感を少しでも是正する制度の検討を要望しました。

全員賛成で可決



毎日楽しいよ（木の花幼稚園）

認定こども園制度を追加

「安心こども基金こども園事業」を追加するため、高千穂町過疎地域自立促進計画の一部を変更しました。
近年、保護者の就労の有無で、利用する施設が限定されており、保護者は幼稚園と保育所が別々に設置されていると、子育てについて不安や負担を感じていました。

全員賛成で可決

補正予算

人工呼吸器を確保

―国民健康保険病院事業―

現在、町立病院では人工呼吸器を必要とする場合に、ある程度の台数を確保しておく必要があります。
4台全部が使用された時期もありました。
当初予算に人工呼吸器1台を単独購入すること
で予算計上していましたが、
生時に重症患者が入院し

全員賛成で可決



人工呼吸器（町立病院）

自己評価を議会に提出

―教育委員会―

高千穂町教育委員の自己点検・評価シートの結果に関する報告書が議会に提出されました。
教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、事務の管理及び執行の状況について報告書を議会に提出することになってい

委員会の意見
自己評価の低い項目は積極的に取り組み、教育委員会の活動や学校教育、社会教育の充実を図ることが重要です。
委員会としても教育委員会との意見交換を積極的にに行い、町民の要望に応えて行きます。

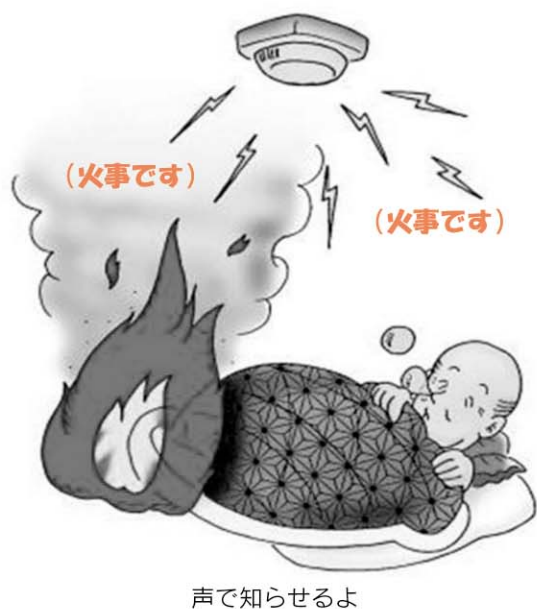
高千穂町教育委員



佐藤さつき委員
(47歳)

任命同意
自：H23.12.16
任期 至：H27.12.15

活躍を
期待します



声で知らせるよ

問 冬場は火の使用が多くなり、火災の発生が心配される。消防団の方々は毎夜、火災予防に巡回され、大変感謝している。23年6月1日までに設置が義務づけられている住宅用火災警報器の設置について問う。設置状況はどうなっているか。



佐藤久生議員

町長 現在消防団に依頼し調査中であり、結果がまとまれば広報誌などでお知らせする。
問 住宅防火の基本はあくまで自己責任であるが、設置義務が科せられている。未設置の場合、今後どのように啓発、指導されるか。

火災警報器の設置状況は 町長 未設置世帯の解消に努める

町長 広報誌やテレビ、高千穂などを通じての啓発や消防団などに依頼しての戸別訪問を行い、未設置世帯の解消に努めたい。
問 消防器の取り扱いについて問う。使用方法などの講習はどう進めているか。

町長 小・中学校、福祉施設、事業所などから防災訓練の指導要請があった場合には係員が出向き、取り扱いの講習を行っている。
問 消防器の薬剤詰替や器材の廃棄などの指導は。
町長 広報誌などを通じて消防器の適切な設置場所や薬剤の詰め替えと容器買い替えを含め、消防団に依頼し、点検・指導を行っている。



がんばるぞ〜（駅伝大会）

町長 「小中学校学力調査」の結果で見れば県平均のレベルであり、今後も家庭学習の充実を図る。
問 スポーツ力については体力、運動能力の向上に取り組んでおり、基礎体力は県平均を上回っている。
町長 地元での就職を希望する生徒に何らかの支援はできないか。就職しようとする子どもに限定した支援制度は何もない。

教育全般について 教育長 教育環境整備に努めた



飯干清喜議員

問 多くの教育経験者の中から、宮崎より就任いただいている黒木教育長に、今までの主な取り組みを問う。

町長 平成19年2月以來、児童、生徒の教育環境整備に努め、特に複式学級の解消を目的とした統廃合を実現した。
問 スポーツクラブに恵まれた都市部の子どもに比べ、本町の子ども達が不利な状況にはなっていないか。

町長 希望する生徒に何らかの支援はできないか。就職しようとする子どもに限定した支援制度は何もない。

町長 昨年度から、勤労や職業観を育てる教育に取り組んでおり、就職希望の子どもにもきめ細かな助言などをしていく。
問 町民は役場職員にサービス精神と思いやりを求めている。期待に応えられる職員採用の基準は何か。

町長 役場職員になって何をしたいかということも重要な要素とする。



谷川秀憲議員

足りない消防団員 町長 団本部と協議し充実に努める

問 本町の消防団員数は650人の条例定数に対して602人である。懸命の定数確保対策にも関わらず、人口減少や地域貢献活動への意識変化など複数の要因があり、成果が上がっていないのが現状である。

町長 消防団は町民の生命と財産を守っていただくために大変重要な組織であり、定数確保も必要であるが、少子高齢化時代に即応した改革の時期に来ていると考える。組織の統廃合、あるいは団員不足を補充する消防団員OBの消防団支援

町長 消防団員数は全体的に減少傾向にあり、地域防災を担う団員確保は極めて重要な課題である。ポスターやチラシなどによる広報活動や機材の

町長 団などの導入も含め、消防団運営の長期計画について問う。
町長 消防団員数は全体的に減少傾向にあり、今後の組織の統廃合、あるいは消防団員OBによる支援団の立ち上げなどについても団本部などと協議し、伝統ある高千穂町消防団の充実に努める。



かしら〜右！（消防出初式）

第2グラウンドの活用を 町長 関係課に整備を指示



戸高次議員

問 本町の消防夏季点検は本年も突然の降雨により、操法競技を中断して会場を変更することになった。折原の第2グラウンド

町長 第2グラウンドを消防操法用に整備するには水利の確保が必要となり、造成するにも用地取得に伴う土地収用法や事業認定の関係など、新たな整備には手続きや協議が必要となる。

町長 高千穂温泉に本年導入したエマルジョン装置（設置金額928万円）は、年間燃料費が400万円の節減に繋がる説明だった。装置の燃焼効率が悪く、様々な調整、対応を行ったが、効果が上がらずに燃料費が増額になった月もある。

町長 燃料費が増額になった分の賠償を求めるべきではないか。装置の不具合による増額は賠償を求める。

町長 夜間の操法訓練もできるナイター照明の整備も行うのか。新年度の予算に盛り込む。

町長 した結果、装置を改良した上で効果を検証し、成果が望めなければ装置の撤去及び契約金額の返還を求める。



どげかして利用せにや（折原第2グラウンド）



ワンストップサービスの福祉保険課

問 高千穂町の総人口は1万4000人を割り、児童・生徒数も減少している。今後は、町内の小・中学校の統合計画を検討する必要があるが、特に岩戸地区では、観光客の増加による児童の交通安全の問題や岩戸小・中学校校舎の耐震構造などの問



馬原英治議員

題点があり、早急に対応すべきでないか。現在本町は、財政問題や跡地利用の課題を抱えているが、今後の長期計画の内容を問う。

教育長 町内小・中学校の統合については、上野地区を同一敷地・単一校舎に設置している。併設校の特性を生かした教育活動が行われていると評価している。

高千穂小学校改築終了後、岩戸小学校管理棟は補強工事困難であるので、岩戸中学校校舎と併せて

早急に検討が必要と考えている。今後は、町部局と充分協議を重ねて、町内の学校統合に向けて対応が必要と考えている。



兄ちゃん姉ちゃんと勉強できるよ
(上野小中学校)

町内小・中学校の統合計画 教育長 町部局と充分協議

問 住民が安心・安全で心豊かな生活、この町に住んでみたくするような町づくりのためには、さらに各課の統合が必要と考えるが、今後の統合方針を問う。



工藤博志議員

町長 11月に実施した行政ヒアリングでは、具体的な協議はしていない。第6次行政改革大綱策定の協議の中で統合について検討する。

問 本町の職員定数は、平成19年に320人に改正されている。今後職員の増員方針がないのであれば、目標定数を定め改正する時期ではないか。

町長 本年4月1日現在の職員数は287人で、条例定数320人との差がかなりあるのは事実である。現下の行政課題や社会情勢の変化に鑑みても、320人という定数以上の職員の配置は考えられないので、職員実数に応じた改正を視野に入れ研究する。

行政改革について

町長 第6次大綱策定で検討



て～げにや古いばい (押方南平団地)

問 平成23年度は鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火、東日本大震災などの影響で、観光を取り巻く状況は厳しい境地に立たされ、全般的に落ち込んでいる。今後の明るい材料として、九州新幹線の全線開通や、6月には阿蘇くじゅう観光圏に加入し、新たな展開が期待される。福岡からの交通アクセスとして、会員制「よからうバス」の運行をどう生かすのか。



奈須克喜議員

町長 九州新幹線全線開通により、関西、中国地方からの入り込み客が増加しており、北部九州を含めた観光宣伝に力を入れる。

問 行政と観光協会の合同観光宣伝の計画はないか。

町長 一市町村での設置は難しいので、近隣市町村とも連携し検討していきたい。

平成24年度の観光振興対策は

町長 コンベンション協会と連携

問 国においては、今後長期化が予想される震災後の復旧・復興対策費に5年間で19兆円、10年間で少なくとも23兆円が見込まれる。国家財政に相当な負担がかかることは避けられず、増税の論議が高まっている。

町長 東日本大震災の復旧・復興には多大な時間と経費が必要であり、国家財政はさらに厳しさを増し、地方交付税は予算を許さない状況にある。

投資的経費に係わる実施計画は、高千穂小学校建設を始め、旭ヶ丘・南平団地の町営住宅建設、岩戸小・中学校の耐震補強工事など、今後懸案と

なっている大型の事業が数多くある。優先順位については、事業の緊急度・財源の裏付け・後年度への負担を十分に考慮し、国の動向を踏まえ慎重に決定したい。

町長 年費4000円で、運行する区間を1年間に何回でも利用できる。24年4月から福岡・高千穂間を毎日2便の運行を計画している。

平成24年は、古事記編纂1300年にあたり、宣伝には絶好の機会であり、県・宮崎観光コンベンション協会とも連携し観光宣伝に力を入れる。



熊楚御堂勝彦議員

実施計画事業の優先順位は

町長 国の動向を踏まえ決定

国においては、今後長期化が予想される震災後の復旧・復興対策費に5年間で19兆円、10年間で少なくとも23兆円が見込まれる。国家財政に相当な負担がかかることは避けられず、増税の論議が高まっている。

このような状況の中、本町では「町営住宅建設」「庁舎耐震化工事」「新火葬場建設」などがあり、今後、数年間にわたる投資的経費に係わる各事業の優先順位を問う。

あり、国家財政はさらに厳しさを増し、地方交付税は予算を許さない状況にある。

新火葬場建設については、事業主体の西臼杵郡衛生組合の火葬場建設委員会と協議されることになっているので、決定次第報告したい。



観光整備のイメージ

シリーズ

● 興枵酒店(上野) ●

走舗



昭和28年新築当時の酒店

初代興枵湛^{たな}さんは田原に生まれ、北方町で兄の木材商を手伝っておられました。昭和6年に妻のシマさんと上野に移られました。

当時の上野村の人口は約4600人で、人通りも多く賑やかで、昭和28年、現在地に酒類小売業として本格的に開業されました。

興枵家の養女になられた信子さんは昭和37年に隣の田辺力夫さんを婿養子に迎えられ2代目となりました。

30〜40年代は屋根が茅



昭和42年湛さん(初代)と洋さん(三代目)



信子さん・力夫さん(二代目)・洋さん

葺きから瓦葺きに変わる新改築の全盛期で、お祝いの酒などの配達は、唐人がのいに一斗カメを乗せ、重くて大変だったそうです。後にライトバンを購入され配達も楽になり、商売も繁盛し、「仕事が好きになりました」と話されていました。

平成15年に力夫さんが体調を崩され、3代目として長男の洋さんが継がれました。

以前に比べ店頭販売よりも宅配が多くを占めており、なんとか生計も成り立っているそうです。

近年、ディスプレイショップが増えている中、お客様は興枵酒店ののれんを大切にしていただいており、今後もお客様を大事にして、「いつでも宅配できるような家族がなばっていききたい」とのことです。

どうぞ傍聴席へ

次の定例議会は3月2日開会予定です。

傍聴の申し込みは、お気軽に議会事務局にお尋ねください。

TEL73-1219

(議会事務局直通)

編集後記

昨年は、年明け早々から鳥インフルエンザ、新燃岳の爆発、東日本大震災、グリラ豪雨など、私たちが経験したことのない大きな災害の年でした。

新燃岳、原発問題など、未だに復興という言葉は当てはまらない現状ではありますが、お見舞いを申し上げますとともに、災害を大事な教訓として前進していかなければならないと考えます。

議会報担当者として、より分かり易く、読み易い議会だよりを目指します。

皆様にとりまして災害のない明るい幸せな年でありますよう心からご祈念申し上げます。

(久・S)

発行責任者

議長 富高健一郎

議会報編集委員会

委員長 奈須 克喜
副委員長 佐藤 久生
委員 富高 友子
委員 戸高 清次
委員 坂本 弘明
委員 馬原 英治